

# 学修データ収集システム 研究紹介

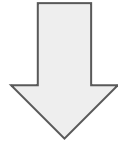
河野ゼミ: 竹内、木村、横尾

# 社会的背景

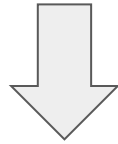
- ・ 国連の予測によると、2055年には世界人口が100億人を突破すると推定されており、変則的で予測が難しくなる社会になると思われる。
- ・ その社会で子供が将来どのように育つかも分からないため、自身が主体的に行動する能力を高めることで一人一人が自身の貢献できる分野を見出す必要がある。

# 問題を解決するために

その貢献できる分野を見つけるために何ができるか？



社会的な見方や考え方、主体性を同時に育むことができる「こどものまち」というイベントを体験した子供たちが何を思い、何をして、次に何がしたいかをアンケート形式で集める。



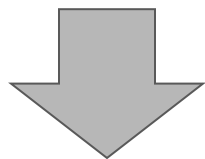
集めたデータの類似点を比較して、子供たちの志向を分析する必要がある。

# 「こどものまち」とは

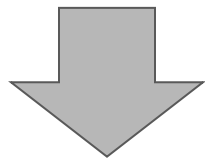
- ・ こどものまちとは、子どもたちが主体となって企画、運営を行う社会の仕組みを体験できるイベントである。
- ・ 30分ごとに担当する仕事を交代し、銀行でお金を受け取る際にアンケートを行う。
- ・ おおよそ50人に回答して欲しいため一斉に行うと混雑が起きてしまうのが難点
- ・ 「社会的な見方や考え方」「主体性」
  - ・ 職業体験、お仕事センター等で育める。

## 収集の問題①

アンケートに時間がかかる



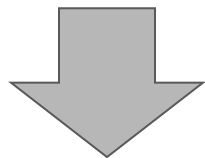
こどものまちが混雑



「アンケートに時間がかけれない」

## 収集の問題②

既存のツールでは推薦システムに組み込めない



「リアルタイムでフィードバックできない」

# 学修データ収集システムとは

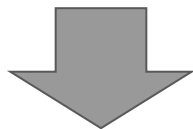
- ・河野ゼミ地域プロジェクトの4年計画「子ども向け学修支援システム」の一部
- ・学修活動後、振り返りの機会を設ける
- ・活動内容の記録の収集
- ・独自のシステムのため自由に構成可能

⇒既存のシステムでは推薦システムに組み込めない。

# 開発する目的

## 毎回の学習活動時の記録をデータ収集

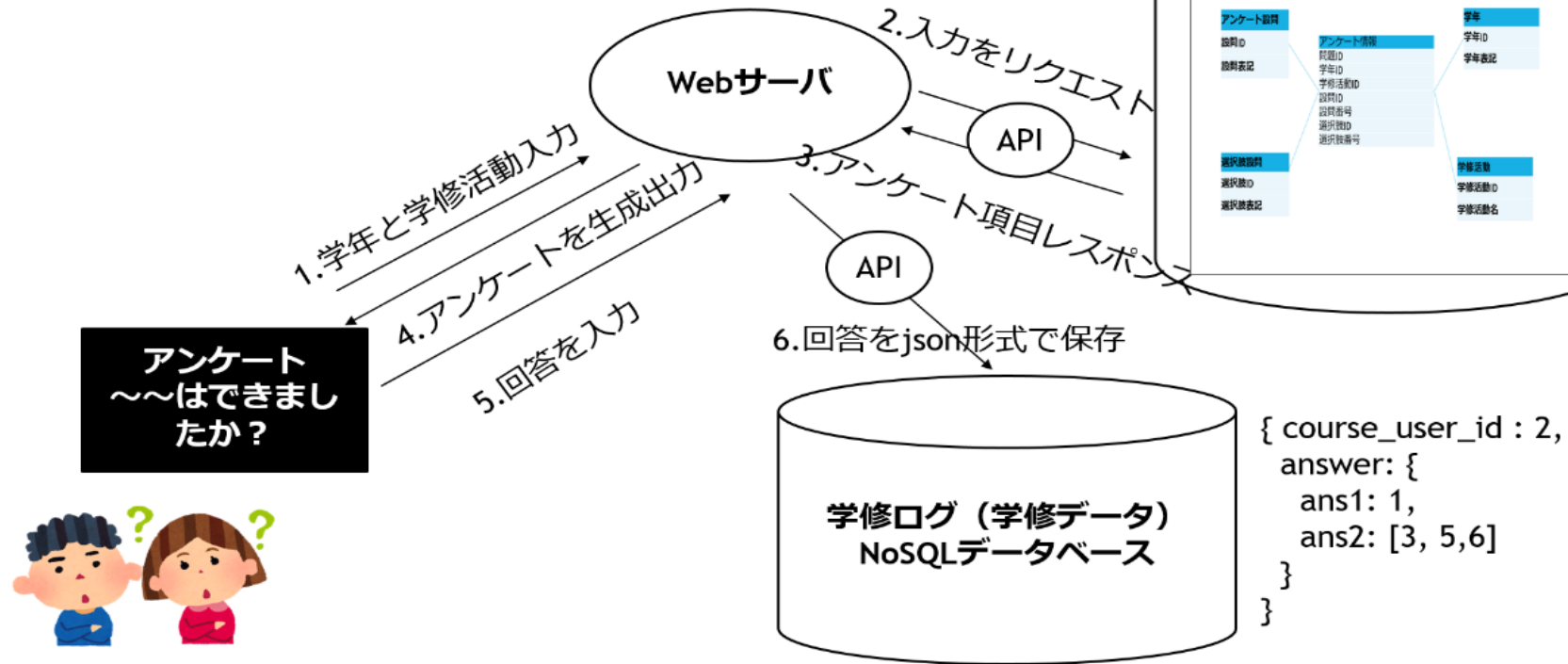
- ・ 学修活動と発達段階に連動してアンケートを生成する
  - ・ 収集したデータを分析し、結果を即座にフィードバック
  - ・ 迅速なアンケートによる混雑回避



**本人の志向に類似した主体的な学修課題の選択を促す学修支援システム**



# 学修データ収集システムの全体構造



# 学習データ収集システムの流れ

## 1. 選択画面

市民番号、学年、学修活動をアンケート画面にて入力する。

「次へ」ボタンでアンケート画面に

⇒入力データを**GET**でアンケート画面に送る。

## 2. アンケート画面

「はじめる」ボタンでアンケート開始

アンケート回答後、「終わる」ボタンで回答を**データベース**に送信し、

選択画面→学習活動を入力するwebページに遷移する。

# システムの機能

- ・ 発達段階と学修活動に連動してアンケートを生成する
- ・ 発達段階と活動に連動して表記が変わる
- ・ 学修データをjson形式でデータベースに保存する
  - ・ json形式だと分析がしやすい
  - ・ 大量のデータを扱うのに向いている

# 実際のアンケート画面

3ついたら、すすむをおしてね

しみんばんごうはなんばんですか？

ばん

なんねんせいですか？

1,2,3ねんせい

4年生～6年生

中学生以上

なにをしましたか？

プログラミング教室

IT大学

こどものまち

すすむ

# 「1,2,3ねんせい」を選んだ場合

アンケートにきょうりょくおねがいます!

1ばん. なにがたのしかったですか?, 4, 001

【複数選択問題】

ゲームがおもしろかった

もんたいがおもしろかった

おとなとはなしができた

ゲームやもんたいがわかった

チームではなしができた

ほめられた

ほか

ない

もどる

すすむ

□

- かいとう1:
- かいとう2:
- 回答済み番号リスト: □

# 「中学生以上」を選んだ場合

1ばん. 楽しかったことは何ですか?, 4, 001

【複数選択問題】

- ゲームが面白かった
- 問題が面白かった
- 地域の人と話げできた
- ゲーム/問題内容を理解できた
- チームメイトと積極的に話げできた
- 大学生や大人に褒められた
- その他
- なし

もどる

すすむ

□

- かいとう1:
- かいとう2:
- 回答済み番号リスト: □

# 期待される効果や貢献

○集計したデータを反映させて課題を示すアンケートシステムの開発



学修データを収集、分析し、本人の志向に類似した主体的な学修課題の選択を促す学修支援システムができあがる。

○このシステムを子供たちが「こどものまち」等を体験する際に行う。



その度に得たデータをフィードバックすることで学修支援の構成が成り立ち、子ども達の主体的な学修の実現に貢献できると考えられる。